別紙様式６

平成 20 年度　学位論文要旨

学位論文題名

地域在住の精神障害者に対する集団作業療法プログラムの開発と有効性

－実施群と対照群の比較－

学位の種類：　博士（保健科学）
保健科学研究科　保健科学専攻　地域保健科学分野
研究生番号：　04001
氏　名：谷 村　厚 子
（ 指導教員名：　山 田　孝　）

近年、精神障害者に対するリハビリテーションは目覚ましい進歩を遂げつつあるが、リハビリテーションをする主人公は障害をもつ者自身であり、リハビリテーションの目標はリカバリーである。作業療法(Occupational Therapy: OT)が精神障害者のリカバリーを目標とした実践とエビデンスを確立するためには、対象者が自分の生活や人生、価値を取り戻すことを目的として OT の理論を背景とした援助手段の開発とその有効性の検証が必要である。

本研究では、精神障害者が望む生活を営むための方略を、OT の理論である人間作業モデル(Model of Human Occupation: MOHO)を背景に、作業の視点で系統的・構造的に学ぶことができる集団 OT プログラムを開発し、地域において実践した。本研究の目的は、本プログラムの有効性を検証するために、プログラム参加群（実施群)と非参加群（対照群)の作業有能性、作業同一性(価値)、環境の影響、および、健康関連の生活の質(Quality of Life: QOL)の変化を比較検討することである。

実施群 18 名と対照群 23 名の変化を、作業に関する自己評価改訂第 2 版(Occupational Self Assessment version 2.1: OSA II)と MOS Short-Form 36-Item Health Survey v2™日本語版(SF-36)を用いて比較検討した。

OSA II では、遂行領域の作業有能性、同一性、満足度の一部が実施群で有意に向上し、身体を使う活動に満足し、問題の把握と解決をより重要と感じるようになった。また、環境領域の作業同一性の一部が有意に低下し、環境に対する価値の変化が示唆された。SF-36 では、ストレスが関係すると思われる身体の痛み(Bodily pain: BP)の QOL が実施群で有意に向上した。加えて、SF-36 下位尺度の活力(Vitality: VT)、社会生活機能(Social functioning: SF)、心の健康(Mental health: MH)増加群の実施群が、同対照群に比べて、OSA II の作業有能性において有意に向上し、本プログラム参加終了時、活力、普段の社会的なつき合い、心の健康等が保たれて準備ができた時には、生産的で満足する自分の作業に意欲的に取り組み、そのパターンを維持できるようになった。

以上より、本プログラムは、①一時的停滞、②気づき、③準備、④再構築、⑤成長といったリカバリーの過程を支援するものであると考えられる。